

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2039回★ 新部長歓迎登山 井戸峠	6/3(土) AM8:00 壬生集合	吉田 武 (654) 大倉寛治郎 (2-3371)	京北山の家-千谷山-井戸峠-常照皇寺
井戸新山岳部長の就任歓迎登山です。多数の部員の参加をお待ちしております。 参加費は、500円です。			
第2040回★★ 鈴鹿山脈 日本コバ(△934.2m)	6/10(土)	馬淵 拓巳 (508)	マイカーで行きます。参加される方は、担当者まで、ご連絡を!
第2041回★★ オオボウゾウ と居母山	6/18(日) AM7:30 壬生集合	大槻 雅弘 (703)	壬生-上夜久野-栗尾… △オオボウゾウ…△居母山…栗尾-壬生
第2042回★★ 大峰 釈迦ヶ岳	6/24(土)~25(日) 24日AM11:00 竹田駅西口集合	井戸 澄夫 (810)	竹田駅西口-(R24,169)-前鬼口-前鬼(泊)…太古ノ辻…大日岳…釈迦ヶ岳…往路下山
第2043回★ 国境シリーズ 牛場山(京門山)647.2m	6/25(日) AM8:00 壬生出発	岡田 茂久 (790)	壬生=山城町=大河原=童仙房=牛場山
*国境シリーズでは府県境の500m以上の山で、標高点・三角点を含めて約50山を対象としています。水井山、横高山、ボンボン山等イベントでよく登る6山は、シリーズとしては特に例会には組んでいませんが、これらを含め45座は既に記録しました。国境シリーズとしてはあと少しですが楽しんでいきたいと思えます。今回もマイカーでの山行きです。事前に必ず連絡を下さい。			
第2044回★★ 苗場山	7/7(金)~9(日)	大倉寛治郎 (2-3371)	京都東IC-湯沢IC-祇川-和田小屋(泊)-神楽ヶ峰-苗場山-赤湯-元橋-湯沢IC-京都東IC
今回は小屋泊りです。多数のご参加を! しめ切りは6月20日(火)までに! 費用は、20,000円程度(交通費、宿泊費、保険代等含む)です。			
集 会		企画運営委員会	
日 時	6月9日(金) PM6:00	日 時	6月21日(水) PM6:30
場 所	厚生会館4F 大教室	場 所	厚生会館4F 大教室



連日、オウム真理教のニュースがブラウン管を賑わせている。サリン事件の重大性と、警察の空前絶後の捜索などから、報道機関が大規模な報道体制をとるのは当然といえば当然であるが、阪神大震災や統一地方選挙といった重大ニュースも影が薄くなってしまっている。また、報道も材料出つくしといった感じで、同じことの繰り返しであり、中にはオウム真理教の布教の手助けをしているようなものもある。

大半の信者が若い人達である。高等教育を受けた科学者の卵のような人が、教祖が空を飛ぶということを信じているらしいことを奇異に思うばかりである。小生が学生の頃は、統一教会（原理研）といった教団があった（今もある）し、また、マルクス・レーニン・毛沢東に走る人もいて、若者の行動パターンは今も昔もさほど変わりはないと思うが、超能力というものだけはどうも新しい要素だと思う。しかし、役の行者は一夜にして佐渡ヶ島から大峰山に飛び戻ったというし、空海にしてもイエスにしても様々な奇跡を起こしたらしいから、麻原教祖が超能力をもっていたとしても不思議ではないのかもしれない。科学の時代といわれる現代においても、科学の力には限界があり、科学を使う人類は愚行を繰り返してばかりいるのであるから、何かしら摩訶不思議なる超能力なるものにすがりたくなる気持ちは分からなくはない。しかし、信じることも、修行することも、出家することも個人の自由であるが、他人までそれにひきずり込むことだけはやめてほしいものである。

オウム真理教団がこれからどうなるのか。消え去るのか、生き残って大教団に発展するのか、それは未来の歴史を見ないとわからないが、少なくともサリン事件で歴史に名をとどめることになりそうである。

(S.I)

【第2033回例会】

「山上ヶ岳」

梅津 吉田 武

11日

2日間の公休を利用して近くの百名山、「八経ヶ岳」と「山上ヶ岳」の大峰山に行く事にした。早朝京都を発して名神栗東ICでR1号線を柘植に出て名阪を針インターで降りた。

R370を吉野町から洞川まで曲りくねった道を予定時間で着いた。

洞川よりレンゲ坂谷林道を車止まで行く。沢沿いにつけられたテープを目印に荒れた登山道をぐんぐんと登る。所々踏跡をはずすが上部に行くとコースもはっきりしてきた稜線も見えてきて約1時間5分でレンゲ峠につく。女人結界の鳥居があって英語でも女人入山禁止の立看板もあった。

稜線は風が強く雨も少し降っていたが山上ヶ岳に向って歩く。女性軍は稲村ヶ岳に行ってもらう。タイムリミットを午後2時として、2時になったらUターンをする事を告げた。

木の階段と岩場混じりのコースであったが20分程で一等三角点「山上ヶ岳」に着いた。

人影もなく小休止をして周囲を廻ってレンゲ峠に下る。

レンゲ峠より稲村ヶ岳に行っている女性軍を迎えに行く。念仏山やピークをトラバースをして少し行くと女性軍に逢ったのでUターンをしてレンゲ峠からレンゲ坂谷のコースを下山した。

少し雨も降ってきたので明日の事を（八経ヶ岳）を考えて川合から行者還林道に入った。

屋根のあるテント地と思って探したが見つからずR169から和佐又ヒュッテに泊る事にした。

素泊り4,000円で我々だけの貸切りであった。食堂でスキ焼をして少しだけ酒宴を開いた。場所を変えて夜遅くまで二次会をして時を過ぎた。

12日

昨夜より雨も強くなって登山する気もないのでドライブ気分で大台教会まで走ったが、さすが雨の降りかたが違う。道路も川になりいたる所に滝が出来ていた。仕方なくUターンして帰路につく。途中入之波温泉に入って京都には午後4時につ着いた。

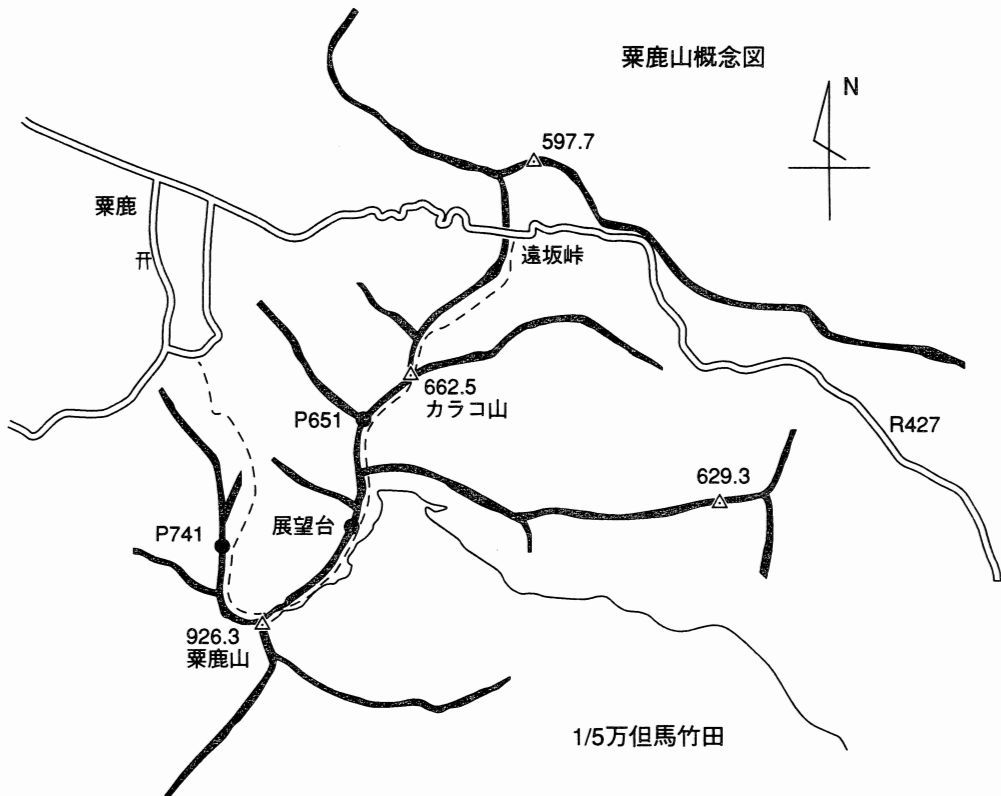
【参加者】 吉田 武 他2名

粟鹿山（ワウシャク山）

大槻雅弘

粟鹿山は、以前から登りたいと思っていた山であった。初めは、「一等三角点の山だから登ってみたい」というだけで、その他に特に興味をもっていた訳でもなかったのだが、『ワウシャク山』という聞きなれない山名を耳にし、それが『粟鹿山』の事だと、慶佐次盛一氏著の「兵庫丹波の山（上）」で知ってから、この変わった山名の山をどうしても早く登ってみたいとなったのである。慶佐次氏は、「日本山嶽志」（明治39年）に『粟鹿山』と『ワウシャク山』という山名が二山とも載っていたため「ワウシャク山を意地でも探し出してやるぞ」と八方手を尽くし、お年寄りから『粟鹿山』の事であると言う話を聞いたのである。

4月16日。朝から少し雲が厚い。天気予報は後半崩れるとのことであったが、集合場所の壬生には約束していた5人全員が集まった。粟鹿山の「点の記」には、「山頂にNTTと建設省の無線中継所があって自動車到達点から1分20m」とあり車で登れる山である。参加者の中には



既に車道から登っている人もあったので、今回はR 427号『遠阪峠』から但丹国界を経て『粟鹿山』へ登り、但馬側の粟鹿村へ下るルートを取ることにした。遠阪峠で車を置き、峠からすぐに急な尾根に取り付いた。一登りすると尾根の東に杣道に出て、辿ると送電線の鉄塔へ出た。尾根には細い踏み跡はあったが、杣道がしっかりとついていたので、それを辿ることにした。

但丹国界の尾根の左手の谷筋に沿って登ると、やがて源頭近くで、大きな杉が立ち並ぶ所に出る。そこは薄黄色のかわいい花を付けた三ツ又の木があった。余り見掛けることがない三ツ又の木が珍しく多く見ることが出来た。そこから谷の源頭は但丹尾根に乗り、カラコ山へ一投足でついた。カラコ山は三等三角点ではあるが、見晴らしの良い場所で、そこから目標の粟鹿山がまだ遙か先に少しガスがかかって見えた。風が少し出て来たが、天気はまだもちそうである。三角点から道は、ブッシュをかきわけ、けもの道程の細い道をピーク651mを越え、次のピーク手前まで進み、昼食とした。今回のルートは長く、山頂まではまだ時間がかかりそうである。食事中、心配した雨が少しパラついてきたが雨具を付けるまでに至らなかった。

食事を終えてから、但丹国界を辿るルートはやがて左からNTT専用道路と合して、すぐに展望台へと出た。展望台は残念ながらガスで見晴らしがきかない。下ばえの熊笹でズボンが濡れるため、雨具をつけた。左手には車道が見えているが、尚も忠実に尾根を歩く。三角点への最後の登りで、雪を少し踏んで粟鹿山へついた。

遠阪トンネルから4時間40分。9,246歩。万歳三唱。

今日の登山は、もうひとつ訳があった。それは昨秋アキレスけんを切った岡田さんの全快祝いをするのである。「本格的に歩くの始めてやし、軽いところ頼むなー。」という岡田さんの為に選んだ山は「あかんかったら車で登ったらエエやん。」というものであったのに、4時間40分は少しきつかったかもしれない。その全快祝いにワインを抜いて少し長い休憩を取った。

下りはピーク741mを地図上通り歩いて、そこから東の谷へ下って粟鹿神社へと出た。地元の好青年のお蔭で、遠阪峠までヒッチすることが出来、本格的に降り出した雨の中をワッシュク山を後にした。

《参加者》 岡田茂久、三橋 勉、和田良一、方山宗子、大槻雅弘

《コースタイム》 壬生7:15 - 9:32 遠阪トンネル9:45...10:50カラコ山(△662.5)
...11:50 昼食12:30...13:08 展望台...14:20 粟鹿山(△962.3)
14:55...17:20 粟鹿神社 - 20:00 壬生

【第2035回例会】

中国山地の山旅 「船上山・三瓶山」

横井 襄二

－5月3日－

連休に入ってから天気は安定せず、今日も雨こそ降らないがどんよりした天気。9号線を西下する予定だったが、混雑が予想されるので南インターより名神高速にのる。結果的にこれが裏目に出て予定変更となる。美作まで約4時間、米子自動車道も渋滞、久世インターで高速をおり181号線を北上。これまでに相当時間をくったので今晚の幕営の事もあり、船上山登山は止むを得ず中止する。

181号線沿いの神代の竜宮岩・鬼の穴というこじんまりした景勝地に寄り、米子、安来、松江を経由して、島根半島の平田市の山中にある一畑薬師に詣でて、三瓶の幕営地に向かう。

三瓶西の原の定の松に着いたのは夕方ちかく、明日登る三瓶山一帯はガスがかかり裾野をほんの一部見せているだけだった。ともかく今日の幕営地を探す、この辺り幕営不可のため北の原に向かう。5分程で北の原キャンプ地に着く。ここは広く松林の中にあり、駐車場とキャンプ地とはほんの少し離れているがリヤカーも用意されており、また、炊事場、トイレも完備され低廉で実によいキャンプ地である。明日の天気の回復を願って夕食早めにシュラフに入る。

－5月4日－

7時過ぎにキャンプ出発。西の原迄戻り、ここに車を置き三瓶山に向かう。相変わらず天気は悪く五合目付近より上はガスがかかっている。草原の朝露を踏み登山道へ、旧道は尾根を直登するコースだったが、今は北側に巻き道が出来ているので比較的楽だ。松と唐松の混ざった林の中を進む。時折遅咲きの桜も見られるが高度をとるにしたがって唐松だけとなる。登るにしたがってガスがひどくなり風も強くなる。900米付近から尾根道に出る一瞬ガスが切れ、下界の展望が開け歓声が上がるが、チラッと見ただけで山の神もなかなか意地悪である。ほどなく頂上台地に着く。天気が良ければ素晴らしい場所だろう。しかしガスの中も見捨てたものでもなく、熊笹や灌木の間から、かすかに見える人影は幻想的で映画の一シーンをみているようである。

少し登るとピークが目の前に現れた、主峰の男三瓶山の頂上一等△(1,126.3米)残念ながら眺望は全然望めず。万歳の後、風を避けて少し下がった四差路付近で休憩、急にガスが切れ100米程先に山小屋が現れる。ガスは幻想的な反面、視界を遮蔽する魔性も持ち合わせている。

後発の鷺見夫妻との交信がやっととれ登り始めたようだ。ここで待つのも時間がかかりそうなので無人山小屋の前を通り女三瓶山に向かう。このころからガスが切れ展望が開け始めた。カコウ岩の露出する急な下りを足元に注意しながら下る。リフト利用の登山者がおいおい増えてくる。空は明るくなり展望も益々広くなり、どこからとなく鳥のさえずりが聞こえてくる。南のガレ場

の下に室内の池が見える。池の一带は自然林になっていて、もえぎ色の若葉、遅咲きの桜山ツツジの濃いピンク等が入り混じり正に極楽絵巻のような景色が俯瞰できる。室内の池は男、女、孫、子の四つ三瓶の山々に囲まれたカルデラ湖である。

一旦下りきって少し登るとパラボリアンテナのある女三瓶山に着く(約950米)。ここで鷺見夫妻を迎え合流する。早いピッチで追いついたものだ。この山からの眺望は東側が開け非常に素晴らしく、新緑が一段と鮮やか、もうガスや雨の心配は無い。東の原からリフトに乗って来た登山者が更に増え賑やかになってきた。小憩の後、若草の生える東の原のスキー場を左に見、大平山を経て、ゆるい下りを孫三瓶山に向かう。この道は特に山ツツジが多く、背の高い枝の濃いピンクが後の山々に映えて実に美しい。

昼食後、孫三瓶山に登り、少し下ると鞍部に出る。ここにザックをデポし室内の池迄更に下る。池の水は思ったより濁っていた。この辺りは烏地獄と呼ばれる所でガスの噴気があり、鳥の死骸も時おり見るようで三瓶火山最後の名残を示している場所でもある。しかし今日は静寂そのもので、噴気の臭いもなく野生の椎茸を採っている登山者もいた。

元の道へバックし一気に約200米を登りきり子三瓶山に着く(961米)。道は狭いが展望はきくのでゆっくりと登る。振り返ると女三瓶山からのゆるい下りの稜線がきれいに輝いていた。下りはステップが設置されて早い足取りで四差路まで下りた。これで直径約1.5km程の火口をほぼ一周。ここを左折し唐松の樹林帯を通り草原の出発地点に下りてきた。こういった山で見かける宗教色が殆ど無かったのはちょっと意外だった。後半は天候にも恵まれ快適な山行で、名残りを惜しみながら、今夜の宿泊地吾妻山に向った。

「吾妻山～烏帽子山～比婆山縦走」「日本のピラミッド－葦嶽山」

岡田茂久

－5月5日－

宿舎の国民休暇村は、食事はいまひとつと言うところであったが、吾妻山山裾に広がる草原に面し、明るい浴場にのんびりと浴かたりして、快適過ぎて身体が鈍ってしまう。

休暇村受付の職員が、学生時代に京都で北山を歩き回っていたといい、最初の赴任先がこの休暇村とのこと、好意的で縦走した後の下山地点まで、車の回送を手伝ってくれることになった。予定では車に積載してきたマウンテンバイクで、車を取りにいくアルバイトを覚悟していただに時間的にも大助かりである。天候も昨日までは誰が雨男かと喧しかったが、今日は雲一つ無い快晴で全くついている。

早朝からじっとしておられず、せっかくだからと、出番のなくなったマウンテンバイクを引き降ろし、山裾の草原を走り回ってみた。

下山路はこの当りと見当をつけた林道に車を留置、休暇村の車でとって返して身軽になって出発。なだらかな草原の斜面を一直線に登ると、眼下に宿舎の錆色の屋根となだらかに広がる草原

と池、ぶなの林の中にはバンガローのとんがり屋根が散在し、日本ばなれした景色が展開する。

30分で吾妻山頂、今日は調子がよい。朝の冷気の中、大山から昨日の三瓶山、日本海まで望める360度の展望を満喫する。行く手には朝の光に白く輝く大膳平の草原を挟み、これから向かう烏帽子山、比婆山は手に届きそうに近い。大膳平へは急降下となる。大膳平は草原に灌木が点在し、のんびりと寝ころんでいたくなるようなところであるが、放牧が行われているのか所々に牛の糞が堆積し、うっかり寝ころぶと悲惨な結果となる。少し下るとベンチと案内表示板のある横田別れ、島根県側からの登山道の合流点である。

烏帽子山への登りは、旧道と新道に別れている。新道の方は道幅が数倍広いが急登だ。途中で旧道と合流するが時間的には大差はない。しばらくで再び旧道は右に岐れユリ道となり、烏帽子山と比婆山とのコルに向かっている。新道を登り樹林帯を抜けると低い灌木と笹の平坦な頂上台地になる。烏帽子山の由来である烏帽子の形をした岩からの展望も、また抜群である。ここまでくると、時間的にも大勢の登山者に出会うようになったが、三角点は台地の南端の高みであるのに、登山道からは踏跡も定かでない。ほとんどの登山者は三角点には興味がないらしい。

烏帽子山を緩く下ると比婆山とのコルで、先ほど別れたユリ道が合流する。比婆山の稜線一帯はぶなの林が素晴らしい。ぶなの大木を縫って良く整備された登山道が続く、ぶなの新芽は、まだ芽吹きかけたところで見通しはよい。ヒバゴンでも出てくるかと期待していたが、明るくて、とてもそんな雰囲気ではない。平らな比婆山の頂上には三角点はないが、イチイの古木に囲まれた比婆神陵と呼ぶ伊邪那美神の御陵と伝える古い塚がある。古事記にも記され又の名を美古登山ともいう。いくつかの苔むした碑が建っていて、千古の歴史を秘めた古くからの信仰の山であったことを伺わせる。

烏帽子山とのコルから横田別れまでユリ道を下り、地図にある広島県側の越原への道に入る。どういわけかこの道は案内表示板にも記されず、針金で頑丈に縛った柵で遮られている。心配したが案に相違してしっかりした気持ちの良い道で、通行禁止の表示もなく通行止にする理由が判らない。最後は植林の中の道となり、林道に駐車した車の真前にボンと飛び出した。

予定の山行を終了し、時間外オプションの「日本のピラミッドー葦嶽山」に向かう。途中のヒババレーのスキー場は上から見ると、まるで飛行場かと見違ふようである。この辺りは積雪はどの位あるんだろう採算は採れるんだろうかと、いらぬ心配などして国道432号線から庄原市に入る。

庄原市内から中国自動車道の下を抜け、赤川から帝釈峡・東城方面に右折し、本村から野谷へ入り、車1台やっと走れる細い道を葦嶽山の駐車場に着く。車が5・6台しか入らぬスペースは既に満ばいで駐車に苦勞する。頂上まで1.6kmの案内があり登山者は家族連れが多い。小さな鳥居をくぐり、谷沿いの道から尾根への最後の急登を経て結構な登りだ。

古代縄文期に遡る巨石信仰、太陽信仰遺跡の「日本ピラミッドー葦嶽山」。エジプトのピラミッドとはほぼ同緯度にあるという。昭和9年に酒井勝軍という人が「古代、世界の中心は日本にあり、エジプトのピラミッドよりずっと古く世界最古で、約2万3千年前にウガヤフキアエズ王朝のスメラミコトが作ったものだ」といいだして、神武天皇の国家統一を是とする皇国史観に反し、異

端邪教であると官憲から弾圧された経緯がある。

いつものことだが、こういうものは過度に期待するとがっかりする。ストーンサークルは戦前に既に官憲の手で破壊されたといふ形跡も無く、メンヒル（石柱）ドルメン（石祭壇）方位石等はこの物かというところであった。葦嶽山自体どの方角からみても三角形のピラミッド形に見えるというが、尾根上のコブといったものだ。しかし、ピラミッドは元来、人の手を加えない自然の物が原則であり、エジプトのピラミッドは砂漠の真ん中で山がないから石を積んで作ったんだという説もある。こうなるとおにぎり形や三角型が多い日本の山はピラミッドだらけに思える。きっと鞍馬の竜王山、近江の三上山等もピラミッドに違いない。そういえば塚や岩岳もある。

葦嶽山では大正時代に神武天皇の秘室を捜すため、石柱を引き倒したという話もあり、いつの時代でも欲にくらんだ者は何をするか判らない。まあ、神武天皇以前の古代歴史を記した「竹内文書」やUFO等を信じる人には、わくわくするところである。

明日、道後山に登るという鷺見夫妻をJR庄原駅まで送る時間に急かれて、駆け足で引き返す。駐車場では16時になるというのに、これから登り出す家族連れがあるのには驚く。JR庄原駅で鷺見夫妻と別れ庄原ICから中国自動車道を帰路、予想通りの渋滞であったが、篠山IC経由で案外早く帰ることができた。

－ 時間記録 －

「5月3日」

京都南IC(5:35)＝米子自動車道久世IC(10:00)＝神代竜宮岩・鬼の穴(10:35～11:00)＝米子(12:30)＝松江(13:40～14:10)＝一畑薬師(14:40～15:20)＝出雲市(16:00)＝三瓶西の原(17:30～17:40)＝三瓶北の原キャンプ場(17:50)

「5月4日」

三瓶北の原キャンプ場(7:25)＝三瓶西の原・定の松(7:45)－男三瓶山(9:30～10:20)－女三瓶山(11:00～11:25)－大平山(11:45～12:15)－孫三瓶山(12:40～12:45)－横尾峠(12:50)－室ノ内(13:10)－横尾峠(13:30)－子三瓶山(13:50～14:00)－扇谷峠(14:15)－三瓶西の原・定の松(15:15～15:30)＝吾妻山国民休暇村(17:25)

「5月5日」

吾妻山国民休暇村(8:40)－吾妻山(9:10～9:20)－大膳平(9:45)－横田別(9:50～9:55)－烏帽子山(10:35～10:50)－比婆山・御陵(11:05～12:00)－横田別(12:35～12:50)－林道(13:10～13:30)＝庄原(14:00)＝駐車場(14:30)－葦嶽山(15:10～15:30)＝駐車場(16:00)＝JR庄原駅(16:30)＝庄原IC(16:45)＝篠山IC(21:15)＝京都(22:10) (走行距離－920km)

－ 参加者 －

奥村弘信 横井襄二 出海洋三 方山宗子 岡田茂久 (5/3～5/5)

鷺見敏一 鷺見寿末子 (5/4～5/5)

例会報告

例会 No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
2033	日出ヶ岳と弥山	5月11日 ～12日		吉田 武	他2名	日程変更 (別稿詳報)
2034	兵庫丹波の名峰 粟鹿山	4月16日		大槻 雅弘	岡田, 三橋, 和田, 方山,	(別稿詳報)
2035	中国山地の山旅 船上山 三瓶山 比婆山	5月3日 ～5日		岡田 茂久	奥村, 横井, 出海, 方山, 鷺見(敏), 鷺見(寿),	(別稿詳報)

部員動静

目的地	月日	天候	参加者	記事
雨壺山と呉枯峯	4月23日	雨のち曇	岡田 茂久 大槻 雅弘 F1 方山 宗子	天気予報は、昼から良くなるというので、信じて、雨の中を京都東ICから、まず、彦根の雨壺山へ。昼から、予報通り、雨上りの呉枯峯へ登ってきた。
荒谷山と Ⅲ△577.9m	4月30日	曇のち晴	大槻 雅弘 他2名	湖北の箱館山の北に処女湖がある。その西に荒谷山と無名峰の三等三角点577.9mがあり、それを苦勞して谷筋から杉林の中をかき分け登った。尾根に出てびっくり。地図にない立派な林道が走っていた。

平成7年6月1日現在

部 員

115名

O B

近藤 薫
森下 村重
伊藤 潤治
中村 織源
牧 定夫
田中 定勝
山村 敏郎
石田 和男
山下 周道
坂井 久光
奥村 弘信
河村 清
松岡伊太郎
津田 実
笈田 昭
横井 襄二
上田 隆
村 宗松
辻 久雄
今井勇一郎
石田 弘
石川かず栄
森本 清一
楠 とし子
坂田 利春
上島 和彦
鷺見寿末子
中山 忠之
鷺見 敏一
渡辺 智生

木原 滋
古市 昌造
三橋 勉
若山 裕孝
井上 豊
蛭子野俊雄
武田喜久郎
荒田又之助

本 局

井戸 澄夫
角田 敏昭
徳野 治
田村 正弘
伊豆蔵 清
上村 次男
大沢 泰
柳田 晃
岡田 茂久
多田 義人
室谷 和彦
江草 哲史
長谷川雅也
宮川 勇
出海 洋三
足立 公弘
木下 嘉造
田村 忠司
松田 誠二
山元 誠一

方山 宗子
大槻 雅弘
佐伯 康介
沢井 佳三
川原 傳治
原田加津子
上島 弘子
立花 雅彦
大野 滋久
広瀬光太郎

鎌田 利雄
竹田 勉
大杉 雅晴
大塚 孝之
政 道代
平田 嘉輝
馬淵 拓巳
猪飼 康夫
岩野 誠司
山岡 昭弘
今道 力
池田 茂生
井上 一夫
児玉 宣治
清水 康裕

高 速

石田 幸次
篠田 勝美
今井 武夫

竹 田

大倉寛治郎
岡本 孝
尾川原和彦
清水 明

西 賀 茂

横田 義一
山田 富男
佐々木敏雄

梅 津

吉田 武
花岡 弘武
阿部 義夫
伊知地文男
関本 俊雄
山口 雅直

五 条

田中 明
田中 忠久

醍 醐

岡本 勇
和田 良一

横 大 路

岡本 義弘

錦 林

竹村 芳広

九 条

大切 照男

烏 丸

台川 敦美

山本 俊夫

洛 西

竹井 章

井口 寿雄

谷口多加志

服部 正義

牧野 健

市 役 所

北田 貞雄

西尾 直樹

雑 報

△△△ 5月の集会

日 時 5月10日(水) PM6:45~7:40
場 所 厚生会館 4F 大教室
出席者 (本局)井戸,山岡 (高速)大倉 (梅津)吉田 以上4名
内 容 例会報告ほか

△△△ 4月の企画運営委員会

日 時 4月20日(木)
場 所 厚生会館 4F 大教室
出席者 井戸,吉田,大倉,奥村,三橋,馬淵
内 容 例会予定,岳連関係報告ほか

△△△ 他山岳会の会報(受贈分)

3月号 愛宕ニュース
4月号 わっぱ
5月号 京都山岳,近畿山行,趣味の登山,木雞,山友,青嶺,比良山岳,一等三角点,北山

△△△ お知らせ

- ・京都トレイル「北山コース」オープントレッキング大会のお知らせ

日 時 平成7年6月18日(日)
受 付 午前8時30分~9時30分
コース 大原戸寺→亀甲谷→ボーイスカウト道→仰木峠→水井山→横高山
→峰道→釈迦堂→蛇ヶ池→比叡ケーブル駅
距 離 9.8km
案 内 昨年6月に実施しましたトレッキング大会のコースを逆に歩きます。
地図と参加品を差し上げます。下りケーブルの割引もあります。お誘い
合わせのうえご参加下さい。

- ・救助隊員研修会

日 時 平成7年6月30日(金)午後7時~
場 所 京都市青少年活動センター

内 容 VTRによる勉強会「各種山岳遭難捜索・救助活動」
講師 須藤建志氏（日本山岳会会員、岳人クラブ代表）

・京都府山岳連盟指導委員会主催の研修会のご案内

日 時 平成7年7月1日（土）午後6時30分～

場 所 京都府中小企業会館 8 F 812研修室

内 容 講演会「空にただよう峰」

講師 松永敏郎氏（日山協指導常任、文登研主任講師）

その他

家庭用品 } 総合卸商社
衛生用品 }

日華商事株式会社

本 店 京都市南区上鳥羽大物町13番地

☎ 601 電話 (075) 672-6101(代)

FAX (075) 661-7332

神戸店 神戸市兵庫区西柳原町10-6

☎ 652 電話 (078) 681-5363(代)

FAX (078) 651-4779

八坂運送有限会社

京都市伏見区醍醐新町裏町24番地の4

TEL (075) 571-1108

帆 布・濾 布
テント・シート
雨 合 羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前

TEL 801-5331 (代)

西大路営業所

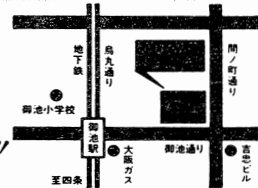
下京区西大路七条下ル

TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

●登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



ビッグホリイケ

営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>

京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)

☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Outdoor sports

ハイキング&キャンプ・クライミング
アウトドアウェア・US産出品
ポイスカウト用品

Mountain

〒604 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(258)-0548
営業時間 AM10:00 - PM8:00 毎週火曜定休
(株) スポーツ コニシ

葦よしの髄ずいから天井のせを覗く…⑤

地下鉄の「くいな駅」は鴨川にかかる水鶏橋くいなにちなんでつけられた由、いかにも京都らしいみやびやかな駅名だ。初夏になると唱歌「夏は来ぬ」の…さつきやみ、蛍とびかい、水鶏なき、卵の花さきて…や、「徒然草」の…くひなの叩くなどの一節が頭に浮かぶ。しかし、残念なことにまだ「くいな」の鳴き声を聞いたことがない。♪誰かくいなを知らないか。

制作 株式会社 北斗プリント社
〇七五―七九一―六一二五

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。



株式会社 **小林地図専門店**

〒600 京都市下京区不明門通六条下る西側
(烏丸通六条東 1筋目下る) ☎ (075) 351-6598 代

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88
TEL (075) 771-3442

平成7年6月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部